

第 44 回高知女子大学看護学会の報告

平成 30 年 7 月 14 日(土)に、「変動する世界の中で『ケアとキュアの融合』を刷新する」をメインテーマに、第 44 回高知女子大学看護学会を、高知県立大学池キャンパスにて開催しました。卒業生・修了生をはじめ県内外の看護職者 136 名の参加を得て、活気ある学術集会となりました。



野嶋学会長の挨拶



しらさぎ会会長 山崎様のご挨拶

講演

講師には、上智大学総合人間科学部看護学科の渡邊知映先生をお招きし、「ケアとキュアの融合の先にある看護技術の社会的評価」のテーマで、ご講演いただきました。

渡邊先生は、日本がん看護学会のがん看護技術開発委員会委員長として、看護技術の可視化、看護技術の社会的評価を診療報酬という形でも取り組まれておられます。看護技術が社会的評価を得るために、エビデンスをどのように示していくのか、ケアとキュアの融合が融合された実践とそのアウトカムや評価について、具体的な活動にもふれながらお話くださいました。がん看護以外の領域にとっても、実践を積み重ね、ケアとキュアの融合による新たな技術として看護を可視化することで、看護が発展する可能性を示していただけた貴重な機会となりました。

参加者からは、看護実践のアウトカムを評価することの大切さや、リリースナースの活動を可視化する意義を感じたなどのご意見やご感想が寄せられました。



渡邊先生のご講演



会場の様子

ワークショップ

午後からは以下の7つのワークショップが開催され、66名が参加されました。

- ① 社会的ハイリスク妊婦に焦点をあてた妊娠期からの包括的支援
- ② 慢性疾患をもつ人のリハビリテーションにおける看護ケアとキュア
- ③ 思春期の子どもたちの発達とこころのケア ～それぞれの立場から子どもたちの生活を支援しよう～
- ④ 急性期医療におけるエンドオブライフケア～患者の権利を守るために～
- ⑤ 専門職として主体的に学び続ける意味
- ⑥ ケアとキュアの融合を創るシームレスな高齢者の退院支援
- ⑦ 看護の実践を語ることで気づく自己の成長

参加者からは、「様々なバックグラウンドの方とディスカッションができ、面白かった。」「対象者の力を引き出すことの必要性を改めて感じた」「改めて気を引き締める機会となった」「看護師としての関わる基本や、新しい視点を学んだ」などの感想をいただきました。



① 社会的ハイリスク妊婦に焦点をあてた妊娠期からの包括的支援



② 慢性疾患をもつ人のリハビリテーションにおける看護ケアとキュア



③ 思春期の子どもたちの発達とこころのケア
～それぞれの立場から子どもたちの生活を支援しよう～



④ 急性期医療におけるエンドオブライフケア
～患者の権利を守るために～



⑤ 専門職として主体的に学び続ける意味



⑥ ケアとキュアの融合を創るシームレスな
高齢者の退院支援



⑦ 看護の実践を語ることで気づく自己の成長

総会

大学の生協食堂にてランチ形式で行われた総会には、42名の学会員に参加いただきました。学部22期生 岡本真知子氏と学部35期生 和泉明子氏が議長として選出され、平成29年度の事業報告、会計決算報告、会計監査報告が行われ、いずれも承認されました。審議事項として、奨学生選考、平成30年度事業計画案、平成30年度予算案、運営委員改選について提案され、いずれも承認されました。